70 YEARS ANNIVERSARY

岡山医療生活協同組合

想いよとどけ、この未来も。

岡山医療生活協同組合

〒703-8288 岡山市中区赤坂本町2-20

TEL.086-271-0943

https://www.okayama-health.coop/

▲岡山医療生協HP

▲LINE友だち募集

LINE 公式アカウント

友だち募集中

岡山医療生協、LINE はじめました。

虹のうたを
つなげよう

岡山医療生活協同組合 70周年記念誌

想いよとどけ、この未来も。

人と人とが互いにつながって、
健康で自分らしくくらせるまちづくりが広がっています

地域に必要な事業を協同の力で創り出し、
いのちとくらしの安全・安心を目指しています

つながって、支えあって70年
さあ、みんなで虹の歌をつなげよう

岡山医療生活協同組合　70周年記念誌　目次

岡山医療生協70周年記念誌 目次 …… 1

マンガで見る 岡山医療生協 創成のころ …… 2・7
年表 岡山医療生協の70年 …… 3・4・5・6
ごあいさつ
　理事長 髙橋淳／専務理事 和田博知 …… 8
私と岡山医療生協（組合員／看護／リハビリ／介護）…… 10
岡山医療生協の　2011年 …… 12
　2012年 …… 13
　2013年 …… 14
　2014年 …… 15
　2015年 …… 16
　2016年 …… 17
　2017年 …… 18
　2018年 …… 19
　2019年 …… 20
　2020年～2021年 …… 21
新型コロナウイルスと対峙した2年間を振り返って 岡山協立病院 副院長 角南和治 …… 22
水落先生を偲ぶ 岡山協立病院医師 浪尾淑子 …… 26
災害支援 …… 29
事業所紹介　病院 …… 30
　診療所 …… 32
　歯科 …… 34
　健診センター …… 35
　介護事業部 …… 36
組合員活動紹介　組合員活動 …… 38
　健康づくり／ささえあい、たすけあい …… 40
　平和や環境を守る／子育てサポート …… 42
70周年記念プロジェクト …… 44
編集後記 …… 46

※お金がなくても受診できる診療所のことです。

しかし医師が去り2年で閉鎖

1951年、岡山大衆診療所は水落 理医師を迎えて復活しました。

1952年8月17日、岡山市医療生活協同組合設立総会。組合員は306人、出資金は10万円からのスタートでした。

舟出はしたものの、人手は足りず機材も不足、それでも力をあわせて困難を乗り越える日々でした。

ところが!!

事務方の経験不足などから経営危機に!

岡山市医療生協は塩田寅雄氏を専務理事に再建へと立ち上がったのです。

地域活動も広がります。

こうして市内に4つの診療所ができました。

花畑診療所

西分院

北分院

平井分院

組合員・スタッフから病院建設の要求が高まり

J. カタヤマ

1952年10月21日、組合員数306人、出資金10万円で岡山医療生活協同組合は創立されました。

◆赤：岡山医療生協の歩み　◆緑：世の中の出来事・全国の取り組み

2023

- 2023（令和5年） ●70周年記念　フェスティバル
- 2022（令和4年） ●岡山東中央病院が優良防火管理事業所として表彰
  - 自動精算機導入 ❹
  - ●岡山市へ「ストップ！」寄贈
  - ●電子カルテ更新・岡山協立病院自動精算機更新、
  - ◆第八次長期計画　「やわらか蒲鉾 日の出」誕生 ❶
- 2021（令和3年） ●ユニバーサルデザインフード協同企画
  - ●新型コロナウイルスワクチン接種開始 ❷
  - ●新組合員カードデザイン決定 ❸
  - ●血管撮影装置更新
- 2020（令和2年） ◆新型コロナウイルス全国緊急事態宣言
  - ●リモート総会（オンライン）面会始まる
- 2019（令和元年） ●新型コロナウイルス感染対応の発熱外来・病棟開設
- 2018（平成30年） ●医療法人フェクトネットバーナルによる医療生協視察 ❷
  - ●ノーリフト運動キックオフ集会 ❸
  - ●タッチケアが岡山市の暮らしやすい福祉のまちづくり表彰受賞 ❹
  - ●HPH健康増進拠点病院へ加盟
- 2017（平成29年） ●岡山医療生協の提携店開始
  - 透析センターリニューアル ❺
- 2016（平成28年） ●「なんでも相談窓口」設置 ❻
  - ●コープ大野辻クリニック開設
  - ●コープ倉田歯科開設　●熊本地震災害支援に参加
  - ●「すこしこお」健康料理コンテスト ❼
  - ●子育てサポートママカフェ ❽
  - ●安全保障関連法の強行採決に抗議
  - ●NPT再検討会議ニューヨーク行動へ参加
  - ●岡山協立病院J-CEP認定病院へ
  - ◆第七次長期計画「夢プラン」
- 2015（平成27年） ●支部は46支部に
- 2014（平成26年） ●岡山協立病院で地域包括ケア病棟を開設
- 2013（平成25年） ●コムコム別館オープン
  - ●岡山医療生協60周年フェスタ
  - ●総会員3，500人に組合員アンケート
  - ●ルスチャレンジ岡山県生活協同組合連合会としての出発
- 2012（平成24年） ●スッキリはれば休操 ❼
  - ◆県日本大震災支援
  - ●支部は45支部に　組合員6万人
  - ●グループホーム福浜開設 ●岡山医療生協の理念の確認
  - ●せいきょう玉野診療所開設 ●岡山協立病院緩和ケア病棟開設
- 2011（平成23年） ●NPT再検討会議ニューヨーク行動へ3人参加 ❽
  - ●健康づくりフェスティバル ❾ ●岡山協立病院50周年
  - ●デイサービス虹の家・玉野市で開設
- 2010（平成22年） ●認知症サポーター養成講座 ❿
- 2009（平成21年） ●第六次長期構想
  - ◆後期高齢者医療保険制度、特定健診
  - ●出資金17億円達成
  - ●岡山医療生協の4つのこころ ●サロン活動26カ所 ⓫
  - ●消化器内視鏡センター稼働（協立病院）
- 2008（平成20年） ●岡山協立病院で回復期リハビリ病棟開設 ⓬
- 2007（平成19年） ●ISO9001：2000認証取得
  - ●上手な受診のしかた～7つのポイント～
  - ●電子カルテのネットワーク法人内の情報共有が可能に
  - ●マルチスライスCT導入、経鼻内視鏡導入
  - ●ファミリーフレンドリー企業表彰
- 2006（平成18年） ●赤ちゃんマッサージはじまる（タッチ・ケア） ⓭
- 2005（平成17年） ●全日本民医医連共同組織活動交流集会（湯郷）
- 2004（平成16年） ●組合員5万人・出資金15億円
  - ●ルスカアンチ・チャレンジ開始 ●組合員・患者「D統一」
  - ●在宅福祉総会センター倉田開設
  - ●在宅福祉センター福浜開設 ●禁煙外来開始
- 2003（平成15年） ●厚生労働省指定臨床研修病院（協立病院）
  - ●日本医療機能評価機構認定病院Ver4（協立病院）
- 2002（平成14年） ●赤ちゃん同窓会 ⓮
  - ●鼎科長医療生協50周年 ⓯
  - ●第五次五カ年計画
- 2001（平成13年） ●医療生協会館コムコム完成 ●あったか弁当開始 ⓰
- 2000（平成12年） ●介護保険始まる
  - ●ヘルパーステーションレインボー開設
- 1999（平成11年） ●出資金10億円
  - ●ウォークイベント（国際高齢者年）
  - ●岡山東中央病院リニューアル（128床）
  - ●訪問看護ステーションコスモス開設
  - ●コープみんなの診療所開設 ●世界保健デー ⓱
- 1998（平成10年） ●ホームヘルパー（2級）養成講座でヘルパー誕生
  - ●助けあいの会（ヘルパーステーション）わかくさ開設
  - ●わかくさ診療所開設
- 1997（平成9年） ●旭東小学校区で「健康づくりアンケート」実施（立命館大学と連携）
  - ●日本母親大会を岡山で開催
- 1996（平成8年） ●第四次長期計画スタート
  - ●ヘリカルCT・DSA（連続血管撮影装置）導入
  - ◆阪神大震災支援
  - ●ソワニエ看護専門学校開設
- 1995（平成7年） ●岡山東中央病院ケアミックス型に ●生協学校はじまる
- 1994（平成6年） ●訪問看護ステーションさくらんぼ開設
- 1993（平成5年） ●コープ西大寺診療所開設
- 1992（平成4年） ●第1回参加と協同の医療を考えるつどい ⓲ ●水質調査
  - ●要求実現運動の前進（自治体健診、乳幼児医療費、国保人間ドック）
- 1991（平成3年） ●患者の権利章典
- 1990（平成2年） ●出資金5億円（7月）、組合員3万人
  - ●第4回全国高齢者大会が岡山で
  - ●MR一導入（自治体健診本格的とりくみ）
  - ●せいきょう駅元診療所へ名称変更（西診療所増改築）
- 1989（平成元年 昭和64年） ●岡山東中央病院取得（88床）
  - ●第三次長期構想
- 1988（昭和63年） ●第1回保健大会 ⓳
  - ●億円増資運動 ●水洗理事長祭知事選出馬
- 1987（昭和62年） ●岡山医療生協35周年で集会や記念誌
- 1986（昭和61年） ●岡山協立病院外来ボランティア開始 ❷
  - ●社保学校支部開催に（第四期から）●組合員総訪問大運動
- 1985（昭和60年） ●支部運営委員会確立 ●班活動の年間計画づくり
- 1984（昭和59年） ●組合員2万人
  - ●健康大学第五期以降支部開催に ●社会保障学校はじまる
- 1983（昭和58年） ●◆人医療有利化 ❺
  - ●新出資制度開始 ❻ ●組合員健診開始 ❼
  - ●岡山協立病院が総合病院に（304床）
- 1982（昭和57年） ●全国ではじめて支部制を導入（8支部5ブロック）
- 1979（昭和54年） ●組合員1万人
  - ●岡山中央福祉会認可、特別養護老人ホーム健生園開設
  - ●第二次五カ年計画開始
- 1978（昭和53年） ●三門診療所開設
- 1977（昭和52年） ●血圧・尿チェックの自己測定のとりくみ開始
  - ●保健大学はじまる
  - ●全身用CT導入 ❸（協立病院）
- 1976（昭和51年） ●新診療棟完成（協立病院）（205床）
- 1975（昭和50年） ●出資金1億円
  - ●◆人医療費料化
  - ●水洗理事長就任
- 1973（昭和48年） ●地域共闘で日本脳炎ワクチンの予防接種運動
- 1967（昭和42年） ●第六次五カ年計画策定開始
- 1966（昭和41年） ●岡山協立保育園開園
- 1965（昭和40年） ●地域班組織
- 1960（昭和35年） ●岡山協立病院開設 ❷（100床）●ポリオ生ワクチン運動
  - ◆朝日訴訟勝訴始まる ●日本生活協同組合連合会医療部会結成
- 1957（昭和32年） ●北診療所、南診療所開設
- 1955（昭和30年） ●◆森永ヒ素ミルク事件
  - ●畑診療所 ●地域活動（新潟の共同購入）
- 1954（昭和29年） ●全国医療生活協同組合連合会へ加盟
  - ●日本生活協同組合連合会、岡山県消費生活協同組合、
- 1952（昭和27年） ●大衆診療所開設 ❶（9ノ25設立許可）
  - ●組合員306人・出資金10万円
  - ●岡山市医療生活協同組合創立（8ノ17創立総会）

❸　❹　❺　❻

協同の力で築きあげた70年

理事長　髙橋 淳

戦後の日本と歩んできた岡山医療生協

岡山医療生活協同組合（略 岡山医療生協）が設立されて70年経ち、この間、岡山医療生協を支えてきてくださった組合員のみなさん、地域のみなさん、職員や諸先輩たちが今まで築き上げてこられたことに敬意と感謝を表します。

1945年、第2次世界大戦（太平洋戦争）が終わり、日本は敗戦国になりました。終戦後、日本はアメリカの統治下にあり、1952年にサンフランシスコ平和条約が発効して、日本が独立国として新しい一歩を踏み出しました。時を同じくして、1952年に岡山医療生協もスタートし、第二次世界大戦後に新しく踏み出した日本とともに、岡山医療生協は歩んできました。

一人は万人のために、万人は一人のために

1948年、新しくできた日本国憲法の「基本的人権」を尊重し、「恒久平和」を願うという理念に沿って、医療生協運動がはじまりました。

命は、かけがえのないものです。その命を守る仕組みが当時はまだまだ不十分で、健康保険もありませんでした。お金がない人は医療機関にかかれない時代です。その時代に「自分たちでお金を出し合って、自分たちの医療機関をつくろう」と、岡山医療生協ができました。私たちの理念の根本は、やはりそこにあると思っています。すべての人たちが、様々な状況にあります。その人の価値観、あるいはその社会的経済的な状況、国籍やジェンダーであったり、民族の違いを超えて、みんなが健康になる権利があり、そのために医療や介護を受ける権利があります。私たちにとって、それが最も大切な理念だと思っています。

高齢化社会の中での私たちの役割

みなさんもご存知のとおり、世界的にも、そして日本も非常に高齢化が急速に進んでいます。超高齢社会になっており、子どもの出生数も少なくなっている状況があります。日本には様々な仕組みを支えてきた社会制度がありますが、家族構成や役割、あるいは終身雇用を基本とした雇用のあり方など、大きく変わってきています。そういう中で、家族内で介護をするという単位で生活が機能する時代から、地域やまちの中でみんながお互いを支え合いながら、多様性を尊重しながら社会を築いていく時代に変わっている最中だと思います。ただ単にその医療や介護を提供するというだけではなくて、皆で協力し、お互いに知恵を出したり、得意分野を生かしながら、まちづくり・地域づくりをしていく岡山医療生協になってほしいと思っています。

人と人とのつながりを大切に新しい一歩を

専務理事　和田 博知

岡山医療生協は昨年70周年を迎えました。1952年8月17日に創立総会が開かれ、組合員306人、出資金10万円で岡山医療生協がスタートしたのです。現在は、組合員数約6万3千人、出資金残高19億円余りの大きな組織になりました。わたしたちが忘れてはいけないのは、「ここまでどうやって大きくなって来たのか、誰に支えられてきたのか」ということです。

戦後まもなく「病気になっても医者にかかれない」という状況の中で、労働組合や民主団体、市民の皆さんの手で岡山医療生協は誕生しました。その後、地道な活動を続け、地域で大きな災害が起きた時には、職員と組合員が一緒に支援に駆けつけました。新型コロナ禍では、地域の組合員や住民のみなさんからの物心両面での支援を受け、発熱外来や新型コロナに感染した患者さんの入院受け入れを続けてきました。

クラスターが起こった他施設へも支援を出しました。わたしたちの70年の歴史は、「自分たちさえ良ければいい」という考え方ではなく、“協同”という言葉に示されるように、人は皆つながっており協力し創造的に問題を解決していく歴史だったのです。

さて、ロシアが仕掛けたウクライナへの一方的な戦争から1年が経ちました。今もなお戦火はやまず日々報道される悲惨な状況に胸が痛みます。

SDGsで生協の役割を発揮

生協は多様性を尊重します。多様性を守るのは平和です。「いのち」にむき合う生協として、一刻も早くウクライナに平和が訪れることを願わずにはいられません。

このような戦争や紛争、気候危機をはじめ「SDGs」の目標が達成できなければ、地球全体が立ち行かなくなる瀬戸際に立っていると言わざるを得ない状況です。違いがあっても調和して生きていく、包摂的な社会実現のために、多くの団体と協力して、よりよい社会の実現のために努力していかなければなりません。

ますます求められる「健康づくり」

3年間続いた新型コロナ禍で、ずいぶん国民の暮らしは変わりました。フレイル（虚弱）の方も増え、このままでは、社会を維持していくことが難しくなると懸念されています。

岡山医療生協の健康づくりの事業がますます重要になっています。「医療生協に入って健康になれた」と実感していただける「常設の拠点」づくりや、70年間にわたって培ってきた「健康づくり」の様々なツールを更に発展させ体系化して提供できるよう整備をするなど、これまで以上に健康づくりを強化していきます。

人と人とがつながりを大切にし、「誰もが健康で居心地よくくらせるまちづくり」をすすめる生協として、地域住民のみなさんと一緒に、新しい一歩を踏み出していきましょう。

私と岡山医療生協

ボランティア活動と「班」が私の基礎

小林愛子（組合員）

理事として34年間関わってきました。ボランティア活動は今の私の基礎になっています。岡山医療生協の理事としてボランティアを担当し、岡山協立病院の外来ボランティアなどを経験させてもらったことがきっかけでした。本当にすばらしい先輩たちのおかげで、患者さんに寄り添い、「ボランティアをさせてもらっている」ボランティア精神を教えてもらいました。職員と組合員ボランティアが、お互いがお互いの立場で患者さんを真ん中に据え、どうやったら患者さんがより良い療養生活を送れるかというのを、本当に一緒に考えれるようになったんじゃないかと思っています。

「班」の活動も私の基礎です。私の住んでいる所はすごく仲のいい長屋町内で、班活動が40年以上続いています。派手な班会はないけれど、集まればおしゃべりがはじまり、人と人のつながりを感じます。健診結果返し班会の時に、いつものことだと精密検査に行かない人が保健師さんからのアドバイスで受診をした結果、いのちが助かったという事例がありました。班会をしていてよかったと改めて感じました。班会に職員も参加し、職員と一緒に健康づくりをしていると実感しました。それから結果返し班会は1年に1回は計画に必ず入れています。

私たちは、まるで愛情いっぱいの経営者のように日頃から「うちの病院・先生・職員・介護センター」と地域の中で言います。今後も医療生協は生協法に基づいた住民の自主的組織ということを実践していきたいです。

先輩たちが積み上げたものを地域へ

佐藤貴博（岡山協立病院 看護師）

学生時代に野球をしており、たくさんの方々に支えてもらったことが、看護師になろうと思ったきっかけです。自分が社会人になった時には誰かの為になるような仕事に就きたいと思い始めました。また、自分の母が看護師をしており、近くで母の働く姿を見る事もあって、看護師として誰かの為になるような仕事がしたいと思い看護師になることを決めました。

岡山医療生協については、岡山協立病院に就職するまで知りませんでした。岡山市内で病院を探していて見学に来させていただいた時に、当時の副看護部長さんに病院の案内をしていただきました。その時に活気のある職場や副看護部長さんの優しさが印象的で岡山協立病院に就職することを決めました。

岡山医療生協は70年の歴史がありますが、僕はまだ10年足らずしか働いてはいません。70年間先輩たちが積み上げてきたものを地域の方々に貢献できるように、還元できるように仕事をしていきたいと思います。

最後に、看護師としてはこれからもたくさん経験を積んで患者さんのためにしっかり働けるよう努力していきたいです。経験を積むなかで、その時代を反映したトレンドはしっかり取り入れるようにして、柔軟な対応ができるようにしていきたいと思います。

岡山医療生活協同組合70周年

若いうちにいろいろな経験を

草地海翔（岡山協立病院　理学療法士）

私がリハビリの仕事に就こうと思ったきっかけは、両親が2人とも看護師をしており医療を身近に感じる機会が周りよりも多かったこと、また社会的に立場の弱い方の力になりたいと思ったため、医療に関わる道を選びました。中でもリハビリは患者さんと関わる機会が一番多く、患者さんのメンタル的な部分でも支えることができます。身体機能面だけではなく、大切なことが伝わって理解し合いお互いに話し合える関係をつくるということが、一番重要だと思っています。

就職する前に様々な病院やクリニックを調べてみましたが、クリニックや専門病院は経験できる幅が少なかったので、若いうちに様々な経験ができることから岡山協立病院を選びました。コロナ禍で入職したので、様々な研修が受けられなかったり、地域活動もまったく参加できていない状況ですが、ほかの友だちや同業者の話を聞いて比べると、私の体験はかなりレアなケースだということがわかりました。臨床現場での経験や通所リハビリ、外来リハビリまで若いうちから経験できるので、やはり自分はここを選んでよかった、自分の目標に近づけて正解だったかなと思います。

岡山協立病院に就職して思ったことが、社会的立場の弱い方は身体的な機能面以外にも、生活の環境や使える保険、社会保障制度の問題が非常に大きいなと感じました。リハビリをしていく中ではそういったところもきちんと話を聞いてサポートすることが重要だと改めて感じました。患者さんや患者さんのご家族、何か悩みを抱えたり、困っている人たちを助けてあげたいという気持ちは変わりません。この信念は忘れずにこれからも仕事をしていきたいと思っています。

組合員ボランティアと寄り添う介護を

大谷茉由（デイサービスセンターくらた 介護職）

母が寝たきりになり、介護が必要となったのですが、そのときの私は何をしてあげたらよいかわからない状態で、母と喧嘩になることもありました。

とりあえず何からはじめようかと悩んでいたときに、たまたま岡山医療生協の求人を見つけ、ここで仕事をしながら母のお世話もできるし、自分が歳をとったときにも何かの役に立つかと思ったのが介護の仕事を始めたきっかけでした。

岡山医療生協のことは知らなかったのですが、祖母が岡山協立病院や岡山東中央病院でお世話になっていたので、ここだったら全部安心できると思いました。

介護をする上で、個々の利用者さんのペースに合わせてお話をしたり聞くように、こちらの都合を押し付けないよう、利用者さんに寄り添うことを意識しています。

ボランティアさんとおやつを作って利用者さんと一緒に食べたり、様々な行事を行ってきました。岡山医療生協の介護は組合員さんのボランティアと一緒に運営しているので良いと思います。

今はまだ技術的に未熟ですが、自分自身成長したいと思っているので、介護福祉士の資格もめざして勉強中です。

私自身が成長しながら、利用者さんと一緒に笑いあい、寄り添う介護をしたいと思っています。

仕事をしていく中でつらいこともあると思いますが、最終的にこの仕事をしていて良かったと思えるようになっていたらいいなと思います。

岡山医療生協の 2011年

新たな理念に

長年の事業と運動への確信を深めるとともに、2012年に60周年を迎える岡山医療生協をさらに発展させる指針として、第64回通常総代会にて全会一致で採択されました。

岡山医療生協は いのちと心を 大切にします。

財田支部と古都支部の誕生

3月19日、東岡山地域（財田・竜の口・古都学区）で活動していた竜操支部を2つに分割し、財田支部と古都支部（古都・竜の口）が誕生しました。

西大寺支部を分割し雄神支部の誕生

5月22日、西大寺中学校区で活動していた西大寺支部を2つに分割し、新たに雄神支部が誕生しました。

グループホーム福浜開設

グループホーム福浜は、認知症高齢者の方がスタッフと共に生活するための住居です。その人らしく、生きがいを持って地域で暮らせるように支援しています。また、『グループホーム福浜』という名称は応募された中から選ばれました。

せいきょう玉野診療所開設

1月より岡山医療生協が運営する5番目の診療所「せいきょう玉野診療所」を開設しました。

岡山医療生協の 2012年

無料・低額診療事業の開始

「無料・低額診療」は、生活困難な方が経済的な理由によって、必要な医療サービスを受ける機会が制限されることのないよう、無料または低額な料金で医療が受けられるもので、社会福祉法に位置づけられている事業です。

岡山協立病院と岡山東中央病院は「いのちの平等」を掲げ、1月1日より生活に困り、医療費の支払いが困難な方を対象に実施しています。

20回目の参加と協同の医療・介護を考えるつどい

岡山医療生協は、「参加と協同の医療・介護を考えるつどい」を1992年から開催し、20回目を迎えました。組合員と職員が協同で取り組む「患者の権利、基本的人権」についての視点を学ぶ場として、また日々の業務の中で組合員と職員が実践してきたものを交流する場としています。

医療生協らしい医療・介護を考える場としての「つどい」の中で、「上手な受診の仕方～7つのポイント～」や「岡山医療生協の4つのこころ」が周知されてきました。

スッキリはればれ体操

転倒予防、筋力アップを目的として、組合員と職員で作成されました。名称は晴れの国おかやまと体操後の感想を込めた「スッキリはればれ体操」に決まりました。

▲スッキリはればれ体操のページへ

母親学校開始

子育て・孫育て世代や子育てボランティアさんを中心に、若い世代の要求実現や担い手づくりを目的としてはじまりました。

岡山医療生協「ヘルスアップチャレンジ」は、岡山県生活協同組合連合会の「ヘルスチャレンジ」に引き継がれました

岡山医療生協60周年

岡山医療生協創立60周年記念フェスタが、11月11日、岡山市民会館にて開催されました。フェスタでは、岡山医療生協の歴史を伝えるDVD「駅元診療所物語」が上映され、その前身である岡山大衆診療所を偲びました。

記念講演は、森永卓郎氏（独協大学教授・経済アナリスト）による「平和を語る～戦争と経済はつながっている～」でした。

岡山医療生協の 2013年

コムコム別館オープン

12月19日、旧協立保育園を改修して新しくオープンした『コムコム別館』のお披露目会を行いました。いつまでも安心して暮らせるまちづくりを進める岡山医療生協に新しい組合員センターができました。

岡山協立病院通所リハビリ開始

介護保険の認定を受けた方の外来リハビリ継続の受け皿として、6月に通所リハビリテーション事業を開始しました。特徴としては、利用時間が1回70分とリハビリのみに特化し、食事・入浴・レクリエーションなどはありません。

利用者は独居の方が多く、他利用者や職員との交流を楽しみに来られている方もいます。現在はコロナ禍ですが感染対策を行いながら、少しでも楽しく運動できるように努めています。

コープ西大寺診療所20周年

20周年を記念して、5月26日、記念のつどいを行いました。建設前から現在までの懐かしい思い出を集めたムービーの上映や、開成支部の大黒おどりで大いに盛り上がりました。

センター倉田10周年

7月27日に「ありがとう10周年」をテーマに夏祭りを開催しました。幅広い年齢層によるステージや組合員、職員からの出店もあり700人を超える来場者で大盛況でした。

チームSTEPPS始動

岡山協立病院では2013年からチームSTEPPSを導入しました。医療事故の原因の約6割がコミュニケーションエラーと言われている中、医療現場の様々な場面でチームメンバー同士の良好なコミュニケーションや態度が求められています。

病院で働く全ての職種でその事が実践できるよう、研修を行ったり強化月間を設けて取り組んできました。チームSTEPPSに取り組むことで、多職種協働のチーム医療を目指します。

岡山医療生協の 2014年

運転サポーターによる健診送迎

健診に行きたいけど車に乗れない、交通の便が悪くて行けない…。そのような声に応え、健診無料送迎をおこなっています。

利用地域の限定はなく、お一人様からご利用できます。「とても助かる」「健診を受けやすい」とご好評いただいているサービスです。

玉野支部を分割し常山支部の誕生

岡山医療生協46番目の支部として、「常山支部」が誕生しました。3月8日に行われた結成のつどいでは、支部分割の必要性や顔が見えるきめ細かい活動を進めることの大切さを、参加者みんなで共有しました。

韓国グリーン病院訪問

4月10日からの3日間、韓国の医療生協の実情と平和運動を学ぶために韓国へ訪問しました。初日は労災病院として設立されたグリーン病院と交流をし、2日目は「独立記念館」を訪れ、韓国の歴史から真実を学びました。

地域包括ケア病棟

地域包括ケア病棟とは、急性期医療を終了しすぐに在宅へ移行するには不安がある患者さんに対して、在宅復帰に向けて診療、看護、リハビリを行うことを目的とした病棟です。

我が国では2025年に団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になり、世界でもまれな超高齢化社会を迎えます。もう少しリハビリが必要な方、看護や治療が必要な方に入院医療を提供することを目的として開設しました。

私たち地域包括ケア病棟スタッフ一同、それぞれの患者さんの気持ちを大切にした医療を提供しています。

岡山医療生協キッズクラブ誕生

小学6年生までの子どもたちと、子育て世代の組合員が中心になって自主的に活動しているクラブです。

岡山医療生協の 2015年

NPT（核不拡散条約）再検討会議への参加

NPT（核兵器不拡散条約）とは、1968年7月1日からスタートした核兵器の開発、製造、保有を規制し、核兵器保有国の増加を防ぐことを目的とした国際条約です。このNPTは5年ごとに再検討会議が開かれて見直されています。2015年もニューヨークで開催され、岡山医療生協から2人の代表を送りました。

JCEP認定
卒後臨床研修評価

岡山協立病院は、国から医師研修を行う臨床研修指定病院に認定されています。

2014年に受審し、2015年に初認定され、県内で4番目の認定病院となりました。基本2年認定に加えて評価が高ければ4年以上の認定を受けることができますが、県内で初めて4年認定となりました。

高く評価されたのは、指導医だけでなく組合員・多職種など地域全体で質の高い研修が出来ていることでした。また認定を受けることで改善点なども明確となり、その後の医師教育が充実しました。

若い医師の入職も年々増えており、今後の明るいまちづくりを支える医師集団を大きくしていきたいと思います。

ママ's カフェ・子育て ふれあい快食会の開催へ

母と子のタッチケア、母親学校など子育て世代のお母さんたちが集まる機会はいくつかありました。そんな中、参加者のみなさんからその時々の出会いで終わるのではなく、それ以降も継続的な集まりがあってほしいとの希望がありました。こうして子育て世代の誰でも定期的に集まれる場としてママ's カフェ（食事無し）や子育てふれあい快食会（食事中心）という名称で定期開催をすることになりました。

第7次長計スタート

第7次長期計画がスタートし，2020年に向けて
下記の4点について決定しました。

①出会い・ふれあい・支え合いを大切に医療生協に加入してよかったと思える活動をすすめます。
②医療生協らしい地域包括ケアを実践します。
地域包括ケアの時代に、保健・予防・医療・介護・福祉が一体となり、医療生協以外のみなさんと協同しながら事業をすすめます。
③次世代の担い手を育成します。
④財務を強化します。

岡山医療生協の 2016年

コープ倉田歯科開設

2年前から建設推進委員会を立ち上げ、1,600人の建設サポーターをはじめとする多くの組合員や地域の人々のご支援やご協力の下に取り組みを進め、コープ倉田歯科が4月11日にオープンしました。

コープ大野辻クリニック開設

7月7日、コープ大野辻クリニックがおかやまコープ、駅西ブロックをはじめとする多くの組合員、役職員の協力によって診療開始となりました。

なんでも相談窓口設置

「なんでも相談窓口」は、9月、"地域の困った"に対応するために設置されました。みなさんに知っていただくために、「なんでも相談窓口カード」を作成し、組合員・民医連事業所・医療生協提携店101社・公民館に配布し、医療生協を知らない方にも届けました。2021年度には健康まちづくりセンターに相談員が配置され、地域の声がより届くようになりました。

相談内容は、療養、介護、受診、生活支援、連携など様々です。なんでも相談窓口では、お話を聞き、一緒に考え、様々な専門家に繋げていますが、お話を伺うだけの方もおられます。高齢になっても、地域で安心して住み続けられるように、色々な方と連携をしていきたいと思います。暮らしの中で「困った」「どこに相談したらよいか分からない」など、ありましたら、気軽になんでも相談窓口をご利用ください。

なかまちーず発足

「なかまちーず」は、岡山市中区地域保健医療福祉連携の活動の中から、中区をみんなで支えていくために発足しました。岡山市中区が、健康で医療や介護が必要になっても、最後まで住み慣れたところで暮らし続けられる地域となることを目指しています。地域の医療従事者、町内会、学校、企業などがチーズのようにとけこみまき込みながら活動を行っています。2020年には「第4回おかやま協働のまちづくり大賞」にも選ばれました。

J-HPH登録

患者・利用者、地域住民、働く職員
みんなの健康づくりに取り組んでいます。

健康を守る活動、病気があっても安心して生活できるまちづくり、健康格差の克服に取り組むことを目標とした日本HPHネットワーク（J-HPH）に全事業所が加盟。事業所、職場ごとに推進委員を定め、HPHの目標を決め、それぞれの立場で取り組みを進めています。

岡山医療生協の 2017年

ヘルスチャレンジ 厚労省アワード受賞

岡山県生協連で取り組んでいるヘルスチャレンジが、2017年は厚生労働省スマートライフプロジェクト「第6回健康寿命をのばそう!アワード」で「健康局長優良賞」を受賞、それに続いて、2018年には「第1回おかやま健康づくりアワード地域部門」を受賞しました。国からも県からも認められた健康づくりの活動です。

虹のカフェ オープン

認知症の方は外に出ることが少なく、家族の方も相談できない場合が多く、悩みを抱えていることが多々あります。そんなみなさんに少しでも寄り添える場所があればとの思いから“虹のカフェ”をオープンしました。

提携店制度と 組合員カード運用開始

11月1日より、「岡山医療生活協同組合提携店」と「組合員カード」の運用が始まりました。提携店で、組合員カードを提示することで、割引などのサービスを受けることができます。

（2021年よりデザインリニューアル）

透析センター リニューアル

10月透析センターがリニューアルしました。落ち着いた雰囲気で、快適な治療環境を提供できることをコンセプトとした間接照明や室内色調を採用し、ゆったりとしたスペースのある透析センターとなりました。

室内の雰囲気も明るく、有線放送による音楽が流れてリラックスして治療を受けることが出来ます。透析を始められる方から「いい意味で思っていたイメージと違う」など、評価をいただけております。

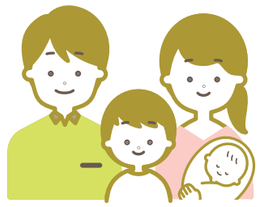
まちづくり表彰

岡山医療生協の「母と子のタッチケア」が岡山市のくらしやすい福祉のまちづくり表彰式で表彰されました。市民参加のまちづくりを進める目的で、岡山市が2005年度から行っている取り組みです。

「母と子のタッチケア」は「よりよい子育ての環境づくり」の部門で、CAPおかやま、文庫えぱみなんだす、マスカットキッズの各団体と一緒に表彰されました。

岡山医療生協の 2018年

おかやま子育て応援宣言企業 岡山県知事賞受賞



岡山医療生協が取り組んでいる「母と子のタッチケア」そして「離乳食講座」「ふれあい快食会」「キッズクラブ」などの子育て支援の活動が、2017年度「おかやま子育て応援宣言企業」として県知事賞を受賞しました。

岡山協立病院 ボランティアグループ 「かるがも」30周年

1988年頃組織部（現：健康まちづくりセンター）を通じて組合員さんに病棟でのボランティアの依頼があり、入浴介助、ベッドメイキング、散歩などのお手伝いを始めました。当時はまだ、岡山市内の病院でのボランティア活動を行っている病院は無く、市内最初のボランティアグループです。

SDGs行動宣言

私たち岡山医療生活協同組合は、6つの行動目標を揚げ、SDGs（持続可能な開発目標）に貢献することを約束します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1. 健康づくりをすすめます
2. まちづくりに協同して取り組みます
3. 貧困や暮らしの問題に取り組みます
4. 環境をまもり、再生可能エネルギーの利用をすすめます
5. 核兵器廃絶と平和を守る活動をすすめます
6. 働き続けられる事業をつくります

岡山協立病院 総合診療科開設

多種多様な健康問題に取り組むのが私たち総合診療科の果たす役割です。当院に総合診療科が発足したのは数年前ではありますが、組合員の皆さんが安心してかかることができる病院を目指して取り組んできた岡山医療生協の70年の歩みが総合診療そのものであると考えます。皆さんの健康、そして幸せにつながる医療活動を実践すべく努力をいたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。

HPHノーリフト運動キックオフ

医療介護現場で多い腰痛。職員の腰痛を防ぐため主に以下のノーリフトケアに取り組んでいます。

「スライディングシート」	寝たきりの方をベッド上で移動したい時、寝返りをさせたい時などに活用
「スライディングボード」	ベッドと車いすを安楽に移動したい時に活用
「リ フ ト」	介護される方が座った姿勢を維持できない場合に有効
「スタンディングマシーン」	立ち上がりを補助

今後は在宅で介護をされるご家族の方に「ノーリフト」の指導や必要な福祉用具の紹介を行っていくこと、周辺の医療介護事業所との協同の学習などを実施して「ノーリフト」を広く普及していきたいと考えています。

岡山医療生協の 2019年

健診結果をスマホでいつでも確認できる

健診と連動CARADAアプリ開始

健診は受けたら終わりではなく、結果を健康づくりに活かしてほしい。そんな想いでCARADAアプリを導入しました。

「健康と生活」や支部の情報が届かない方にも、新しいオプション検査やキャンペーン等の情報をアプリから届けることができるようになりました。今後は健診後の精査勧奨にも活用していき、より多くの方の健康づくりを支援していきます。

コープみんなの診療所20周年

病気の時だけでなく元気な時から診療所をしっかり利用できる、そんな願いが込められた“みんな診”。

20年の節目をむかえた2019年の診療所まつりには多くの組合員・患者・近隣の方が参加し、お祝いしました。これからも地域のみなさんと一緒にあゆみをつづけます。

岡山東中央病院30周年

9月18日、30周年記念日のイベント「チャレンジ30」を開催しました。参加者の方々にお手玉30回、なわとび30回、腹筋30回などさまざまなチャレンジをしていただきました。「マイお手玉」持参で参加された組合員さんや「マイボール」参加でリフティング30回を達成した地元の中学生。グループで遊びにきた小学生の参加もあり、病棟の患者さんも参加者の方々から元気をもらい、笑顔あふれる1日となりました。

マンモグラフィ更新

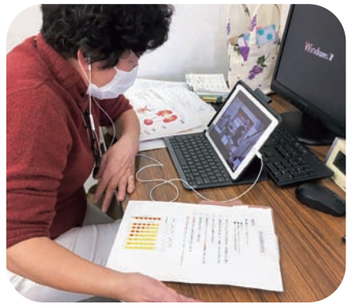
9月にマンモグラフィ装置を更新しました。個人差はありますが、検査時の圧迫による痛みや装置との接触部の痛みが軽減できています。検査室も壁紙を張り替え雰囲気を明るくしたことで、リラックスできると好評をいただいています。

また、最新の断層撮影が可能になり従来の撮影では見えづらかった病変の発見や、偽陽性症例の判別に役立っています。新装置導入により、一層組合員の皆さんの健康な生活に役立てると考えています。

岡山医療生協の 2020年～2021年

2020年

リモート班会〈邑久東支部〉



新型コロナウイルスのまん延によって、班会講師派遣が難しくなる中、リモート班会が増えました。

耳の不自由な班員のために、字幕を付ける等の工夫もしました。説明が速い時は「ゆっくり」や「質問」カードを使い、とても楽しい班会ができています。

出資金金融機関引落し制度

「昔は班長さんが出資金を集めにきてくれたんよ。ここまで出資金持ってくるんは大変じゃ」と窓口で相談されたこと、コロナ禍で組合員活動が制限されたことがきっかけで、4月からサービスを開始しました。

コロナ禍での学生支援

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、経済的に困窮した学生への支援を8月より、諸団体と協力して開始しました。現在までに各方面より、多くの食料品や日用品のご寄付をいただき「経済的な理由で、学業をあきらめざるを得ない学生を助けたい」という想いで取り組んできました。

岡山協立病院60周年

岡山医療生協が設立された1952年から8年後、1960年に岡山協立病院が100床で開院しました。1983年に総合病院となり、2002年にはリニューアル。11月10日、318床、600人をこえる職員を擁し、急性期から回復期まで対応できる病棟機能をもった病院として60周年を迎えました。

コロナ禍のため、記念行事は出来ませんでしたが、外来や病棟での感染予防を整備し、オンライン面会などに取り組みました。

2021年

『やわらか蒲鉾日の出』の協同開発

「いつまでも、好きなものを食べて健康でいてほしい」「昔のように食べられなくても、おいしいと感じてほしい」「食べる楽しみをあきらめないでほしい」そんな食をとりまく環境への想いから、株式会社「長谷井商店」と「岡山協立病院NST（栄養サポートチーム）」で、「やわらか蒲鉾日の出」を協同開発しました。

岡山医療生活協同組合70周年

新型コロナウイルスと対峙した2年間を振り返って

絆を強め、ひとり一人の使命を感じた

総合病院 岡山協立病院
副院長　角南　和治

この2年間、私たちは人類史上に残るパンデミックの中で過ごしてきました。岡山協立病院もこの荒波の中で、地域の命と健康を守るために新型コロナウイルスと対峙し続けてきました。今回はこれまで規制もあってなかなかお伝えできなかった当院での新型コロナウイルスへの取り組みについて、順に振り返りながらご紹介していきます。

＊新型コロナウイルスは正式名称が「SARS-CoV-2（重症急性呼吸器症候群をひきおこすコロナウイルス2型）」で、これによる感染症をCOVID-19といいます。本文ではCOVIDと記載しています。

COVIDの始まりから第1波（2020年4~6月）まで

2019年12月、中国武漢で始まった新型コロナウイルス感染症は2020年1月に日本でも初めて患者が報告され、その後全世界に広がっていきました。3月には世界保健機関（WHO）が「パンデミック（世界的大流行）」を宣言し、当院にも影響が出始めたのは第1回目の緊急事態宣言が出された2020年4月頃からでした。

岡山県には2つの大学病院に加え、公的な大規模病院が数多くあるため、当初は当院のような感染症指定病院でもない民間病院がCOVID患者を受け入れることは正直考えてもいませんでした。それでもウイルスの足音が近づき、本気モードの契機になったのは発熱した職員が簡易検査で感染を疑われた時でした。当時はCOVID患者を犯人扱いするような報道が続き、ネットでの誹謗中傷が相次いだ時期で、もし陽性になれば病院は当面閉鎖、何より職員を守れるかどうか大変心配しました。幸いPCR検査は陰性で体調もすぐ回復しましたが、以降は地域の医療と職員も守るために、様々な水際対策から危機管理、感染防止策を徹底しました。さらにマスク、ガウン、手袋などが不足し医療資材の確保も大きな課題となりました。ほぼ毎日対策会議を行い、事務職員が資材確保に奔走しました。5月には保健所から要請があり、正式にCOVID対応の「発熱外来」を開設しました。

この当時、世間の偏見が強く、親が病院勤務という理由で子どもさんが保育を断られるなど、市民の方々も得体のしれない未知のウイルスへの恐怖心に翻弄されていた気がします。一方で組合員さんや地域の方々が寄せ書きや手作りのガウン、フェイスシールドを届けてくださったり、地元企業がお菓子などで励ましてくださったりと心温まることもあり、地域の応援は何よりの力となりました。

地域が必要とする医療を第2波（2020年6月~10月）でのCOVID病棟立ち上げ

当院で大きな転機となったのは7月に入って県内患者数が増加し、県対策本部より「今後、公的病院のみでは対応できなくなる可能性があり、COVID病棟を設置してほしい」と要請があったことでした。内々の打ち合わせはしていましたが、十分な設備もない当院にとってはハードルの高い課題でした。

まずは、岡山市内でCOVID病棟を立ち上げていた公的病院を見学、ゾーニングの実際（防護服の着脱場所、汚染区域、清潔区域を明確にわけて感染拡大を防止する方法）などを細かく教えてもらいました。見学先の病院は、クルーズ船での治療にもあたった専門医の指導の下で設備も完璧、快く見せてもらった上に多くの資料もいただきました。

しかし、当院にとってはまだ「絵に描いた餅」、会議で報告した際の職員の第一声は「本当にこんなことができるのですか?」という冷ややかなものでした。しかし「地域が必要とする医療を提供するのが我々の務め」という高橋院長のリーダーシップの元で意思統一し、ゾーニング可能な病棟の一部をCOVID専用病棟に改修工事しました。

次は最重要課題であるCOVID病棟で勤務する看護スタッフです。当時ワクチンもなければ、有効な治療薬もわからない状況で、この病棟で勤務することはたいへんな勇気を要しました。その中で10人以上の看護師が集まってくれました。それでも開設直前の尾崎副看護部長との面談では、「コロナは怖いです。かかったらどうしようと思う。でも患者さんを助けてあげたいです」「実家の家族に会えないので手紙を書きました」「お母さんに泣かれました」「人生で貴重な経験ができるのでがんばります」など、様々な葛藤を抱えながら臨んでくれていることがわかり、副看護部長自身も「私はこの看護師たちの思いを無駄にしてはいけない」と自分自身の決意を固めたそうです。

8月より4床でスタートし、看護部が主体になって食事、入浴方法、排泄物処理方法、急変悪化時のシミュレーションなど、細部にわたりマニュアルも完成しました。「こんなことができるのですか?」から「どうやったらできるのか?」に切り替え、多くの職員が力をあわせて病棟を立ち上げた姿勢は本当に立派だったと思います。結果的に第2波では若年の軽症者中心で大きなトラブルもなく、運用面でも自信になりました。岡山の民間病院では第3波以降に緊急的に病棟を設けたところが多く、その点では当院は早期から土台作りができ、後には4つの病院が逆に当院の見学に来られたほどでした。

本格的なウイルスとの対峙 第3波（2020年11月~2021年2月）と第4波（2021年4~6月）

全国的にも11月以降に患者数が増え始め、対応ベッドを10床に増加、ここからが新型コロナウイルスとの本格的な闘いとなりました。検査機器をやっと購入でき、当院でもPCR検査が可能になりました。年末～年始にかけてはさらに患者数が増加、岡山市内でもクラスターが次々と生じ、発熱外来も寒風の中での

新型コロナウイルスと対峙した2年間を振り返って

検体採取が続きました。入院患者は酸素を要する重篤な肺炎の方が中心となり、高齢者が増えて介護度も高まり、病棟でのケアや処置も濃厚になりました。当院は設備面から原則中等症までを対象とし、呼吸器やECMOを要する方は高次医療機関搬送としていましたが、これらの治療が難しい高齢者では最期の看取りまで治療を行いました。2021年1月にはCOVIDでの死亡症例を初めて経験し、ご家族が最期をともにできない状況は医療者にとってもやるせない思いで、最大限の家族サポートを行いました。

そして、岡山で最大の感染となったのが第4波です。連休を境に岡山県もステージⅣに上昇、当院のCOVID病棟は16床に拡大、自宅やホテル療養中に病状悪化した方を中心に運び込まれ、連日ほぼ満床となりました。発熱外来～検査部もフル回転で、今回ばかりは尋常ではないと感じていたところ、大都市に続き岡山にも緊急事態宣言が出されました。常に当院で陣頭指揮にあたってきた杉村副院長が、ある対談でこの当時を以下のように語っています。

「岡山もコロナの第4波に襲われた。5月の連休から一気に患者数は急増し、全国でもワースト3に入るほどだった。来る人来る人、重症になりそうな人ばかりで、入院と同時に高流量（30L）の酸素投与（ネーザルハイフロー）を必要とした。コロナのベッドはすぐに満床になった。一つベッドがあけばすぐ保健所から電話が入る。毎晩毎晩その繰り返しであった。頼まれれば受けてあげたいけれど、体制がとれなくて入院要請を断ることもあった。申し訳なくて、つらくて、悔しい思いだった。でも、岡山は幸いにして感染のピークが2週間程度と短かった。それが本当に救いだった。

コロナが襲ってきて気づいたことを2つだけ挙げる。ひとつは、看護師たちの使命感に感動した。相手がどんな感染力のウイルスかわからない時から、患者のそばに飛び込んで行った。『自分たちがこのウイルスに感染した人を看護しなきゃいけないんだ』と、当然のことのように。もう一つは、全国で多くの仲間ががんばっている。危機的な医療体制の中で懸命にベッドを確保してくれた人もいれば、大病院では想像を絶する大変な数の重症患者をみてくれている。そんな彼らからも心温まるメールが返ってくる。それぞれの現場で働くことが与えられた使命として感じる」

第4波では当院でも8人の方（平均84歳）がCOVIDで亡くなりました。様々な状況で、重症でも高次医療機関に搬送できないケースもありました。本人、家族にとっては厳しい選択だったと思います。医師になって初めて「命の選別」を感じました。介護施設等の集団感染では病院に搬送すらできないケースもあり、当院からも何度か応援を派遣しましたが、さらに厳しい現実があったと聞きました。県のクラスター会議でも「身体的・免疫学的弱者」、「社会的・経済的弱者」、「知的・精神的弱者」は守りにくい3領域と指摘され、社会全体の大きな課題と思います。

ワクチン接種の普及と第5波（2021年7～11月）

当院でのワクチン接種は、2021年3月から近隣の医院等も含めた医療従事者より開始し、5月からは地域の高齢者、7月から一般住民全体が対象となりました。特に、一般住民へと拡大された際は、多数の方にどう対応するか試行錯誤でした。その中で医師、看護師、薬剤師、事務系職員がチームを構成し、毎週日曜、500人近い方に接種できるようにしました。薬剤管理、受付、問診、注射、健康観察、書類等入力とスムーズに連携し、

岡山医療生活協同組合70周年

COVID病棟開設時の研修の様子

11月までに1万1,800回（5,900人×2回）、岡山医療生協全体では約2万回（1万人×2回）の接種ができました。職員にとっては休日業務となりましたが、地域からたくさんの感謝のことばをいただき、中には「チームワークの良さに感動しました」と当院への就職を考えてくれる方まで現れ、スタッフの大きな励みとなり、職種間の結束も高まったように思います。

第5波では、入院患者数は多く満床に近い状態が続きましたが、高齢者の入院が減少して重症度が低くなり、ワクチン接種の効果をひしひしと感じました。透析室など特別な配慮を要するケースもあり、現場スタッフは細心の注意と時間外対応を要し、たいへんな労力だったと思います。他部署から応援も加わり、患者さん自身も協力して乗り切ってくれました。

また、社会復帰に不安を感じておられる方も多く、退院後の「コロナほっとライン」も行ってきました。当院独自の取り組みで、電話訪問により心配事があれば相談に応じ、患者本人のみならず家族の不安も和らげることにつながっています。

オミクロン株による第6波（2022年1月～）

このまま終息してほしいという願いもむなしく、1月中旬からは爆発的に患者数が増加し、発熱外来も再び多忙となり、病床も満床に近い状態が続いています。県からの依頼により、新たに「中和抗体」の点滴治療も受け入れています。一方で職員、患者さんの感染による機能縮小の部門も出ており、もうしばらくはウイルスとの闘いが続きそうです。

新型コロナウイルスと対峙して感じたこと

当院では感染症専門医（杉村副院長）と感染管理認定看護師（中村師長）が存在したおかげで、難しい局面も適切に乗り切ってきました。

また、県や保健所からの依頼を可能な限り受け入れたことで、これまで以上に行政との信頼関係を築くこともできました。これまで約200人の入院、発熱外来は連日20人を超える対応を行い、PCR検査は延べ6,000件を超えました。各現場職員一人ひとりの奮闘には心から賛辞を送りたいです。

病院の仕事は、当然ながらコロナ以外の通常業務が大部分を占めます。しかし、このウイルスの影響で医療現場は大きく混乱し、貴重な命も失われました。そんな状況だからこそ、コロナ最前線で戦う人、後方支援する人、通常業務を支える人、それぞれが自分に何ができるかを考え、職種間でもお互いに「思いやり」や「感謝」の気持ちを伝えることで、チーム医療が前進したように感じています。コロナウイルスは人と人の交わりを分断してきましたが、逆に医療現場では互いの絆を強めながら頑張らせてもらっているようにも思います。

このパンデミックを乗りこえ、笑顔と活気が戻ることを祈ります。

※この文章は2022年1月時点で執筆され、2022年3月「健康と生活」に掲載されたものです

岡山医療生活協同組合70周年

水落先生を偲ぶ

岡山医療生協の「巨星墜つ」

総合病院 岡山協立病院医師
元理事長　浪尾　淑子

はじめに

2021年11月、水落　理先生（岡山医療生活協同組合 元理事長）が97歳で亡くなられました。まさに岡山医療生協にとっては「巨星墜つ」の感があります。「水落先生を偲んで…」という文を任せられましたが、先生の器の大きさに私の感性・知力を集めてもとても水落先生を表すことができません。そこで、先生の著書「聴診器」「なつめ」より引用しながら水落先生の業績を称え、偲びたいと思います。

貧しい者に優しい眼差し

水落先生の著書「聴診器～いのちのうたが聞こえる～」を読みかえしてみました。この本は、「健康と生活」（1983～1988年）のコラムに執筆されたものをまとめたものです。

このコラムでは、先生独特の皮肉を混じえながら、政府による社会保障の後退につぐ後退に対して緩めることなく鋭い眼を向けています。しかし、貧しい者にはやさしい眼差しを向けています。「コラム」のひとつを紹介します。（文章は要約しています。）

「救急車の声は悲しい。」

救急車の声は悲しい。まるで庶民の悲鳴を聞いているようだ。小さな町工場を経営するAさんは高血圧で通院していた。円高不況で事業は苦しく無理を重ねた。国保料が払えない。10月14日、Aさんは仕事中手足がしびれて次第に容体悪化、救急病院に運ばれた。

救急車の中で「保険証がない」とうわ言のように言いつづけていた。診断は脳出血。奥さんが保険証をもらうための金の工面に走りまわり、10月19日やっと保険証を手に病院に戻ったがその甲斐もなくAさんは数時間後に帰らぬ人となってしまった。

これはつい最近、京都でおこった悲しい出来事である。

京都だけではなく全国いたる所でおきつつある。老人保健法が改悪され、老人医療費が無料でなくなってから70歳以上の人の死亡が急に増えた。我慢しつづけて急に悪化、救急車で運ばれても手遅れという人も増えている。

税金も保険料も実に重く人の命はとても軽い。社会保障は音を立てて崩れようとし、師走の街に今日も救急車の悲しい音がひびく。

（1962年12月1日）

こうしてコラムを読み進むと水落先生の怒りがしだいに乗り移ってきます。

1993年には革新統一候補として岡山県知事選挙に立候補され、「世直しドクター」として善戦し、岡山市では33%の票を得ました。先生は選挙中演説の中で武田信玄の「人は城、人は石垣、人は堀」という名言を良く引用され、「人を大切にする政治を!」と訴えられました。この言葉は、医療生協のあるべき姿（職員に対しても組合員に対しても）を示していると思っています。

あたたかい県民本位の県政めざして奮闘

患者の立場に立ち
民主的な医療を求めて

水落先生の多くの業績の中から一部を紹介します。

岡山医療生活協同組合の「生みの親」

岡山医療生協の前身である「岡山大衆診療所」は、1951年に復活されました。医師国家試験に合格したばかりの水落先生は、「ぜひ大衆診療所を再開してほしい」との要請に応え、所長となることを決意されました。

そして1952年、岡山医療生協が創立されました。その後、郷里の国保診療所に帰られましたが、1968年「民医連脱退問題」で揺れている岡山協立病院に院長として再度帰任されました。

岡山医療生協発祥の地「旧駅元診療所」（現コムコム駅西館）の入口近くには、「民と医　ここに立つ一歩」の石碑が立っています。この碑は、水落先生の筆によるものです。

「“人間裁判”朝日訴訟」の生き証人

現在でも社会保障の闘いの原点といわれている朝日訴訟は、憲法25条「健康で文化的な最低限度の生活」をめぐって、人間の尊厳と国家の責任が厳しく問われた裁判です。水落先生は「朝日訴訟」が始まった1957年は水島協同病院に在籍されていました。朝日茂さんの病状は重く、水落先生は国立療養所の主治医と対診されていました。朝日さんが亡くなられた後の解剖にも立ちあわれ、水島協同病院病理医から「死因は腸結核ではなく栄養失調ではないか」と示唆を受けられています。この朝日訴訟は、1960年第一審が「現行生活保障基準は憲法に違反する」という画期的な判決が下され勝訴しました。その後、東京高裁二審で「すこぶる低額だが、まだ違憲とはいえない」という判決で敗訴し、さらに最高裁で「上告人死亡により終了した」と訴訟を退けました。

この朝日訴訟は全国の勤労者を巻き込み、敗訴はしましたが、その後生活保護費が大幅に引き上げられました。

水落先生は朝日さんについて次のように語っておられます。

「うず高く積み上げた書物の中の粗末なベットの上で、やせ衰えながら澄んだ目が私達を励ましてくれた。病気と貧困との斗いに対して人間らしく生き抜こうとする者に対して、そして患者の立場に立ち民主的な医療を築き上げようとする人々に対して彼の魂はいつも語りかけてくるのである。」

「森永ヒ素ミルク中毒事件」権威との闘い

1955年西日本一帯でヒ素が混入した粉ミルクにより1万2,000人（死亡130人）の幼児に被害がでました。1956年、厚生省の指示で権威のある医師たちの「六人委員会」で後遺症治癒判断がなされ、保障処理も終わっていました。しかし、1969年丸山

水落先生を偲ぶ

教授（大阪大学）による被害者の事後調査「14年目の訪問」で、後遺症が予想以上に多いことが報告され、再び大きな社会問題となりました。

1970年から岡山民医連は、「森永ミルク中毒の子どもを守る会」の依頼で被害児の自主検診を始めていました。こうした運動が広がり、1971年から森永の依頼を受けた厚生省の指示で、岡山県の「官制委員会」の検診が決まりました。委員会のメンバーは大病院の院長や大学病院の教授陣が主力でしたが、再三の県との交渉で水落先生や松岡健一先生（水島協同病院）など民医連医師も参加することとなりました。被害児の立場を守る検診をさせるよう、判定日には前もってカルテを全て調べ、発達史等含めて被害児の全体像が理解されるよう粘り強い努力をされました。

1972年、民医連の委員の「多くの後遺症がみられた」という意見もあり、結論は採択できなかったが、委員長の独断で「患者の健康状態は特に憂慮する状態ではなかった」というまとめを公表しました。

水落先生達は直ちに反論し、「一定の障害が認められ、今後健康管理に留意すべく関係者の注意を要する」という報告を厚生省に提出しました。その後徳島地裁で森永の有罪が決まり、財団法人「ひかり協会」が設立され、被害者は検診や医療費補助、年金支給など生涯に渡って守られることとなりました。

岡山県の医療を画期的に進めたCT導入

1977年、理事会で最新鋭のCTの導入が提案されました。当時、全身用CTは日本で3台目という画期的な計画でした。医局会議でS先生は「インディアンがキャデラックに乗るようなものだ」と反対されました。しかし、組合員理事だったOさんが、「医療生協が導入しないでどうするんですか」と言われた声にも押され、慎重に学習・調査と審議を重ね導入を決定しました。地域の「CTセンター」として岡大病院を始め、地域の医療機関に開放されました。“CTの協立病院”と言われ、肺癌や肝臓癌等の早期発見や脳血管疾患に対して正しい診断がされるようになり、岡山の医療水準は一挙に進みました。

水落先生にとっては「大衆診療所」のスローガン「民衆の力で大学よりも高度で、しかも民主的な医療をつくり上げよう」という初心を実らせた大英断だったと思います。

終わりに

水落先生が87歳で出版された著書「なつめ」のはじめに、「現在でも未来の社会でも奢り昂ぶる権力や覇権主義、ルール無き資本主義に対してはあくまで勤労者の立場から、貧困者や社会的弱者の立場から、正義感に富む若者のように毅然とした気持ちでありたいと願っている」と記しておられます。

最後に元気な先生にお会いしたのは、2年前の県知事選挙の時です。支援する知事候補の最終日、街頭演説に「アリスの広場」に来られており、医療生協の職員たちとニコニコ歓談されていた姿が浮かびます。「ご存命の内にもっといろいろなお話を聞いておけば良かった」と、とても残念です。

最後を看取られた主治医の杉村先生は、「岡山医療生協を創設した先生らしく最期まで凛々しいお顔をされていました」と言われていました。

私たちは水落先生の意志を継いで、医療生協や民医連のめざす理念を忘れず日々の医療活動や組合員活動を行っていきたいと思います。

災害支援

被災地支援の輪にいち早く参加

東日本大震災

2011年3月11日、国内観測史上最大となるマグニチュード9.0の地震が東日本を中心に発生しました。

震災直後から日本中に支援の輪が広がり、岡山医療生協もいち早く『支援本部』を立ち上げ、活動を行いました。

避難所では往診や健康相談のほか、看護スタッフが被災者のお話を聞きながら足浴や洗髪などのケアを行い、大変喜ばれました。

もちつきバザー

岡山医療生協、協同プランニング、にじのこ福祉会の3者が協力し、2012年～2016年まで毎年、被災地支援のもちつきバザーを行いました。

広島豪雨災害

2014年8月20日に広島市北部の安佐北区や安佐南区の住宅地などで大規模な災害が発生しました。

岡山医療生協は、8月27日より9月初旬まで毎日、泥出し作業や地域訪問を中心に支援活動を展開。参加ボランティアは、9月末までに70人を超えました。

熊本地震

2016年4月14日夜から16日未明にかけて、熊本県を中心に震度7の地震が起こり、多くの被害が出ました。

岡山医療生協は医師1名、看護師2名、事務員2名を3泊4日で派遣し、くわみず病院・菊陽病院での支援を行いました。

平成30年7月豪雨（西日本豪雨）

2018年6月28日から7月8日にかけて、豪雨が全国の広い範囲を襲いました。特に、西日本では岡山県や広島県を中心に、河川の氾濫や土砂災害などが発生しました。

岡山医療生協は避難所を訪問し、救護班として血圧や体温、酸素飽和度を測定しました。避難所での生活状況を把握し、県や市の職員へ伝えました。

炊き出し支援

西平島地域から寄せられた炊き出し要請に応え、組合員さんの応援も得て、一週間おにぎりを作り、毎日届けました。

岡山医療生活協同組合70周年

事業所紹介［病院］

総合病院 岡山協立病院

●岡山市中区赤坂本町8番10号 TEL:086-272-2121

岡山医療生協のセンター病院として

岡山協立病院は、1960年11月10日岡山医療生協組合員の熱い期待のなか、鉄筋コンクリート3階建て、100床の病院としてオープンしました。当時、診療科目は内科、小児科、外科の3つの診療科目でしたが、現在は最新の総合診療科を含め25の標榜診療科をもち、入院では超急性期のハイケアユニットから一般急性期、リハビリテーション、緩和ケア、重度の障碍者の病棟など急性期から慢性期、在宅まで幅広く対応できる318床の総合病院となっています。

設備面では64列マルチスライスCT、1.5テスラMRI、血管撮影装置（DSA）、3Dマンモグラフィーなどの最新鋭の装置を備えた放射線科、経鼻内視鏡による検診から内視鏡下での胆管や胃癌治療までできる消化器内視鏡センター、2017年に35床に増床した透析センター、手術室は多い月で70件を超える手術を行っています。

栄養サポートチーム（NST）、呼吸サポートチーム（RST）、感染対策チーム（ICT）、褥瘡サポートチーム、認知症ケアチーム（DCT）、緩和ケアチーム、排尿自立支援チームなど、医師、看護師、リハビリなどの専門職がチームとなって患者さん一人ひとりの療養生活をサポートしています。また、地域では救命講習会をICLSチームが、腰痛対策にノーリフトチームなどが各種講習会を企画したり、講師活動等で、地域の健康づくりをサポートしています。

地域連携センターでは、地域の病院・医院、介護施設等の患者さんの受診をサポートするだけでなく、講演会や学習会、カンファレンスを企画するなど地域全体で医療、介護、福祉の連携をすすめ、安心のネットワークづくりをすすめています。

地域の健康づくりを支えるだけでなく、地域の困ったに対応できるよろず相談所のような役割として「なんでも相談窓口」や組合員送迎サービスとしての「のってこカー」の取り組み、無料・低額診療事業なども行っています。

2020年からの新型コロナウイルス感染症の対応では、県下の公的医療機関以外ではいち早く、発熱外来の設置や入院患者の受入を行いました。新型コロナウイルスの受入病床は最大16床となり、外来も24時間365日PCR検査を実施し、県の電話相談事業やクラスター対策班、宿泊施設、一時療養施設へ職員派遣を行うなど積極的に取り組み、岡山市や県、周辺医療機関からも高く評価されました。

新病棟イメージ

岡山東中央病院

●岡山市中区倉田677-1 TEL:086-276-3711

「1日1日を楽しく!」職員と組合員の思い

岡山東中央病院はもともと個人病院でしたが、医療活動を停止していた1989年9月に譲渡され医療生協の病院となりました。一般病棟の時期を経て、現在は全ベッドが慢性期の患者さんを対象とした療養型病院です。

症状が安定した患者さんに対して食べる・動く・排泄・入浴・衣類の着脱など日常生活の自立を目指し、医師・看護師・介護士・リハビリ等の専門スタッフが援助を行います。寝たきりでも介助入浴して褥瘡ができないように努めたり、隣接しているコープ倉田歯科から歯科往診を行い、口腔ケアに力を入れたりしているのも特長です。長期にわたる入院が多いことから食事にもこだわり、美味しいと好評です。

集団レクリエーションでは、体操やゲーム・カラオケ・楽器演奏・手作業や茶話会などを楽しみながら機能回復できる工夫をしています。喜んでいただく様子を思いうかべながら、職員もボランティアさんもいろんなアイデアを出し合ってきました。

暮らしのそばで地域とあゆみ「くらたタウン」へと進化

今では隣地に在宅福祉総合センター倉田とコープ倉田歯科もでき、3事業所あわせて「くらたタウン」という愛称で親しんでいただいています。

住み慣れた場所で安心して生活できるよう、病院と介護事業所が日々連携しています。

「頼りになる病院」として、連合町内会の自主防災会と共催で防災のつどいも行っています。学区は海抜が低いこともあり特に防災への意識が高く公民館活動なども活発です。病院も地域の一員としてたゆまぬ取り組みが求められています。

また、今ではあちこちの事業所で門松づくりが行われていますが、初めて組合員さん手作りの門松が立ったのは岡山東中央病院です。「なんとしても病院を支えなくてはならない」との組合員さんの思いが原点です。あわただしい年の瀬の1日に、職員も一緒になって竹を切ったり飾り付けたりするのが風物詩となっています。

人と人がふれあい、築いたものは人の中に受け継がれていきます。これからも1日1日が楽しく充実できるように、暮らしのそばでともに歩いていきます。

岡山医療生活協同組合70周年

事業所紹介［診療所］

コープ大野辻クリニック

●岡山市北区今3丁目26-28
（コープ大野辻2階）TEL:086-805-0335

いつも「くらしのすぐそばに」をモットーに、
「医」と「食」で地域の健康づくりをサポートするクリニックを目指します。

2022年12月をもって閉院となりました。今後は組合員の活動拠点として、クリニックのあった場所を活用して新規事業を検討しております。

コープ大野辻クリニックはせいきょう駅元診療所からコープ大野辻店の2階に移転し、6年が経過しました。

北区唯一の岡山医療生協診療所として、外来・健診・訪問診療をおこない、胃の検査・超音波検査・心電図も対応しておりました。おかやまコープさんと手を取り合いながら、地域の健康づくりをサポートしました。

コープ西大寺診療所

●岡山市東区西大寺中2丁目20-33 TEL:086-944-0088

何でも診てくれる、相談にも乗ってくれる
家庭的でかかりやすい地域の「お医者さん」の役割を担っています。

コープ西大寺診療所は1993年（平成5年）2月1日に開設しました。開設の経緯は、西大寺地区に初めての診療所をつくろうと地域の組合員が仲間増やしと増資に奮闘し、粘り強い運動で実現させたものです。

外来診療・健診活動・訪問診療が診療所医療活動の3本柱です。あなたのかかりつけ医として、健康づくり推進の場としてフル回転しています。

コープみんなの診療所

●岡山市中区乙多見101-4 TEL:086-278-8522

みんなの診療所は地域の組合員さん「みんな」で作り上げてきた
家庭的でかかりやすい診療所です。

地域の皆様が集えるようにホールを開放しています。支部の会議や班会、趣味の集まり、サークル活動、ボランティア活動など、様々な活動に利用されています。

健康づくりのため、定期的（年に10回程度）に「保健講話」を開催しています。医師、保健師、放射線技師、提携店の方など多彩な講師をお迎えして“わかりやすい”と好評です。

せいきょう玉野診療所

●玉野市羽根崎町5-10 TEL:0863-81-1696

急性期医療から、慢性疾患管理、さらに健診活動や在宅医療に力を入れ
地域から選ばれる安心・安全・信頼の医療を目指します。

せいきょう玉野診療所ではマルチスライスCT・胃カメラ（経口及び経鼻）・超音波検査（エコー）・血圧脈波等を活用し、急性期医療から糖尿病・高血圧症・高脂血症などの慢性疾患管理、さらに健診活動や在宅医療（訪問診療）にも力を入れています。

また、まちかど健康チェック・健康まつり・班会（学習会）、講演会等を行い、地域の健康づくりのお手伝いをしています。

事業所紹介［歯科］

総合病院 岡山協立病院 歯科

●岡山市中区赤坂本町8-10
岡山協立病院内 TEL:086-271-1978

食事に楽しみを、笑顔に自信を!!
「ここにきてよかった」と言ってもらえる歯科を目指しています。

食べる喜びやおしゃべりすることなど楽しい生活は、健康なお口の状態、健康な歯があることから始まります。お口の中を健全な状態に保つこと、健康な状態に回復させることは、本当に大切です。

組合員さんとともに地域の健口づくりに取り組んでいます。

病院の歯科の特長を活かし、外科系治療に不安のある方や高齢者・有病者の方も安心して受診できる歯科医療の提供を心掛けています。

ご要望に応じて、入院患者さんの病棟往診・口腔ケアも行っています。

コープ倉田歯科

●岡山市中区倉田680-1 TEL:086-237-8888

「病気や障害をお持ちの方もかかりやすい歯科」を目標に、
施設だけでなく心のバリアフリーを目指した歯科診療所です。

2016年4月に開院した、歯科診療所で外来、訪問診療を行っています。外来では、プライバシーに配慮した半個室でのゆったりとした診療と、車イスでもかかりやすいバリアフリー設計を取り入れています。

当院は岡山医療生活協同組合の訪問歯科センターの役割も担っており、病気や怪我で通院が困難な患者さんへ、訪問診療での治療や口腔ケアを行っています。

お口の機能の維持回復は、健康で居心地よく生活を送っていただくための第一歩です。歯科治療を通じて、地域の皆さまに信頼される歯科診療所を目指しています。

事業所紹介［健診センター］

岡山医療生協 健診センター

●岡山市中区赤坂本町8-10
岡山協立病院内
ナビダイヤル 0570-007845

思いやり、真心込めて、
健康診断を。

受診者様お一人おひとりのニーズに合わせた健診メニューや、健康づくりのアドバイスを提供することを、大切にしています。

豊富な健診コース

健診センターでは、人間ドック、岡山医療生協オリジナルのバラエティ健診、自治体健診、各種がん検診、被爆者がん検診、労働安全衛生法に基づく健診等を行っています。

様々なオプション検査も組み合わせることができ、組合員の方々に優しい料金設定をしています。

心強い専門スタッフ

医師、保健師、管理栄養士、健康運動指導士等、専門スタッフが、チームとなって受診者様の健康づくりをサポートしています。健康診断の各種所見は、専門医がダブルチェックをしています。

健診後には精密検査の相談や栄養指導や保健指導などを行い、健康づくりのためのアドバイスを行っています。「健診結果の見方が分からない」そんな方が、3人以上集まれば、専門スタッフによる健診結果班会を開催できます。

健診マスコットキャラクター▶
「にじろう」
2018年2月7日生まれ
虹色の翼をもつハト（男の子）
健診結果はいつもA判定（異常なし）

健診をもっと受けやすく

「家から病院までが遠い」「病院まで行く手段がない」「家族や友人と健診を受けたい」という方のために、健診無料送迎サービスをしています。

その他にも、お子様がいても安心して健診が受けられるよう見守りボランティアサービスや、平日は健診を受けることができない方のために土曜日や日曜日（年数回）の健診を行っています。

一人でも多くの方が健診を受ける機会を増やす工夫をし、疾病の早期発見・早期治療に繋げることを心がけています。

歴史でみる岡山医療生協の健診

1980年 11月末 乳がん検診が普及する
1983年 9月1日 組合員健診が始まる
1985年 8月1日 組合員健診が週2回に増える
1986年 4月1日 組合員健診の項目が増え、充実した健診へ
6月1日 一日ドック開始

2019年 健診結果をスマートフォンで見ることができる「CARADA（カラダ）」アプリを導入

事業所紹介[介護事業部]

在宅福祉総合センター倉田

●岡山市中区倉田668-1

2003年に開設され、現在では3つの事業所が集まって切れ目ない介護活動を行っています。

デイサービスセンターくらた

●岡山市中区倉田668-1　TEL:086-276-7081

一人ひとりの思いと笑顔を大切にします。

在宅福祉総合センター開設と同時にオープンしました。定員は40名で、「くらた温泉」と呼ばれる大浴場があり利用者に喜ばれています。一人ひとりの思いに寄り添い、笑顔で過ごしていただけるデイサービスをめざして頑張っています。2階にあるヘルパーステーション・居宅介護支援事業所とも連携を図っています。

ヘルパーステーションレインボー

●岡山市中区倉田668-1　TEL:086-200-1720

住み慣れた地域で過ごしていただけるよう日常生活を支援します。

介護保険発足と共に開設された岡山市内でも老舗のヘルパーステーションです。中区を中心に介護を必要とする高齢者・障がい者の自宅に訪問、身体介護や生活援助を行っています。日常生活を穏やかに過ごして頂けるようケアマネジャーはじめ、関係する職種と連携し、利用者の心身の状態に合わせたサービスを提供しています。

コープケアプラン倉田

●岡山市中区倉田668-1　TEL:086-200-1729

岡山協立病院・岡山東中央病院との連携で暮らしを支えます。

2003年在宅総合福祉センター開設と同時にスタートした事業所です。中区を中心に居宅介護支援を行っています。

中区は医療生協組合員さんも多く、岡山協立病院・岡山東中央病院とも連携しながら、在宅生活をサポートしています。センター内にヘルパーステーションとデイサービスがあり、きめ細かく連携できるのも強みです。

ケアプラン協立・介護の窓口

●岡山市中区赤坂本町2-20　ComCom会館2階　TEL:086-901-0228

医療介護のシームレスな連携で退院後の生活を支援します。

「ケアプラン協立・介護の窓口」は2017年コムコム会館2階にオープンしました。岡山協立病院MSWや何でも相談窓口と連携し介護保険の相談や申請、退院後の介護サービスの調整など、まさに「介護の窓口」的役割を果たしている事業所です。

退院後も住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援しています。

訪問看護ステーション さくらんぼ

●岡山市中区赤坂本町8-10 岡山協立病院内
TEL:086-271-5599

訪問看護の事ならおまかせください。

2015年岡山協立病院に事務所を移転しました。岡山協立病院の退院患者さんを中心に、地域の開業医とも連携して訪問看護を行っています。

「退院後も安心して過ごしたい」「少しの間でも家に帰りたい」利用者・家族の気持ちに寄り添って24時間365日頑張っています。

岡山医療生活協同組合70周年

在宅福祉センター福浜

●岡山市南区福富中2丁目8-7

2004年に開設され、現在では2つの事業所が集まって運営しております。

コープデイサービス福浜

●岡山市南区福富中2丁目8-7
TEL:086-902-0221

心と体のリフレッシュを応援します。

組合員さんより「南区に組合員が集える場所を作ろう! 」と声が上がり、2004年在宅福祉センター福浜が誕生しました。

2階は組合員ホール、1階にデイサービス福浜があります。定員25名のアットホームなデイです。リハビリ機器も充実しています。心と体のリフレッシュを応援し、親切・丁寧な介護で利用者をサポートします。

グループホーム福浜

●岡山市南区福富中2丁目8-10
TEL:086-264-1077

尊厳を守り、その人らしさを大切にします。

2011年に開設した2ユニット、18名のグループホームです。認知症高齢者のその人らしさを大切にした介護を行っています。

温かく家庭的な雰囲気の中で、生活リハビリやレクリエーション、四季折々の行事などで、楽しく健康的な生活ができるようサポートしています。

岡山東中央病院と医療連携しています。

ケアプラン北長瀬

●岡山市北区今3丁目18-30　TEL:086-246-4101

北区のみなさんの在宅生活をサポートします。

岡山協立病院退院後の患者さんや北区にお住まいの方を中心に在宅介護や在宅生活がその人らしく継続できるように全力で支援しています。

また、北区エリアの事業所として健康づくりや地域づくりをサポートしていきます。

デイサービス虹の家

●岡山県玉野市羽根崎町5-26　TEL:0863-81-8801

「虹の家」に来て元気になりましょう。

玉野支部組合員さんの熱い想いから、2010年に立ち上がった地域密着型デイサービスです。2016年にはせいきょう玉野診療所隣に新築移転しました。定員18名です。

開設当初の家庭的な雰囲気を保ちつつ、ご利用者の皆さんに「虹の家」に来て楽しかった!と思っていただけるデイサービスをこれからも職員一同、組合員さんと一緒につくり上げていきます。

ケアプラン玉野

●玉野市羽根崎町5-10　せいきょう玉野診療所2階　TEL:0863-81-1711

玉野診療所と連携、安全・安心な暮らしを支援します。

せいきょう玉野診療所の2階に開設され11年目を迎えました。せいきょう玉野診療所とデイサービス虹の家：医療と介護サービスを繋ぐ役割を果たしています。

利用者の声に耳を傾け、思いやりと寄り添う心で在宅生活を支援します。3人の小さな事業所ですがパワー全開がんばります。

旭東

三勲

宇野

富山

岡山医療生活協同組合70周年

平井

操南

操明

旭操

組合員活動

つながって、支えあって、ひととまちを元気にしよう

岡山医療生協は63,000人の組合員が19億4000万円の出資金を出し合っています。
731の班が地域に存在し、小学校・中学校区で46の支部に所属しています。
それぞれの支部は事業所などを中心に8つのエリアにかたまり、健康づくりや「地域の困った」の相談、まちづくりを行っています（2022年12月末現在）。

※赤文字：医療事業所
緑文字：介護事業所
青文字：たまり場

岡山医療生協オリジナル体操 スッキリはればれ体操

脳いきいき教室5ケ条（認知症予防）

食	魚と野菜中心 / 腹八分目、よく噛む
動	汗ばむ程度の運動 / 外出はいつもと違う道を
楽	一日一回以上会話を / 楽しい趣味を持つ
知	買い物時、暗算 / 記事を見つけて音読
休	30分程度の昼寝 / リラックス体操

ゴキブリ団子づくり班会

笑う班会（笑いヨガ）

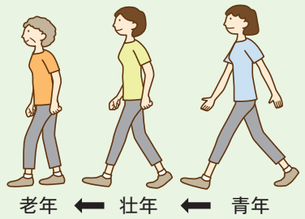
フラワーアレンジメント班会

サロン活動の紹介ページへ

セーフティウォーキング

ロコモを予防して歩行寿命を延ばしましょう!

普通の生活を送っていると、加齢とともにロコモが進行して、しっかり歩けなくなってきます。しかし、その原因に対処したプログラムを習慣化すれば、ロコモを予防して、いつまでも歩行機能を保持する可能性が高くなります。



高島

財田

幡多

上道

瀬戸

古都

山陽

芥子山

可知

西大寺

雄神

政田

健康づくり

【健康チェック】

血圧や尿、骨密度測定などの健康チェックを班会やイオンスタイル岡山青江店などの街頭で実施しています。

2020年からは健康チェックシステムを導入し、日頃の健康チェックや健診データなどを見える化できるようになりました。また、組合員のくらしや福祉の向上に寄与しています。

健康チェックページ

【フレイル予防】

日本老年医学会が2014年に提唱した概念で「frailty（虚弱）」の日本語訳です。①認知や身体機能の低下、②食事量の減少による生活機能の低下、③社会との結びつきの減少によって、介護や入院などが必要な状態に近づいていることを言います。

岡山医療生協ではフレイルチェックを支部やサロンなどで行い、予防に取り組んでいます。

▲動画
フレイル予防への挑戦!

【すこしお】

「すこしお」とは、「少しの塩分ですこやかな生活」をめざす医療福祉生協の取り組みの総称です。

すこしおレシピの紹介や学習会など、岡山医療生協も『すこしお』の啓発に取り組んでいます。

福南

福浜

芳田

妹尾

開成

西大寺南

山南

山南南

ささえあい、たすけあい

【虹のアクション】

虹のアクションでは、①平和、社会保障、暮らしの課題を市民に広く訴え、他団体との協同を広げる。②岡山医療生協を地域にアピールする。③組合員、職員の活動参加をひろげ、医療生協・民医連運動の発展をめざす事を目的に行動しています。

【あったか食堂】

あったか食堂は、岡山医療生協と福祉交流プラザ旭東との共催で2017年9月からスタートしました。

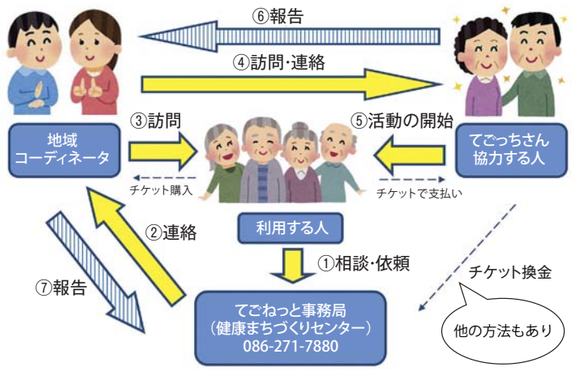
一人で食べる個食をなくし、みんなで集まり楽しく食事をする事を目標にしています。コロナ禍でも、お弁当を配布して継続して行っています。

▲動画
地域とつながる「あったか食堂」

【てご♥ねっと】

暮らしの中でちょっと手助けが必要な組合員と、少しならお手伝いができる組合員の助け合いの会です。

組合員さんならどなたでもご利用になれます。（2022年12月時点で対象地域は4つです。）1人暮らしや2人暮らしで、これまで自分で出来ていたことができなくなった時、またはそれに準ずる方は、ご相談ください。



興除

藤田

光南台

玉野

常山

邑久

邑久東

長船

平和や環境を守る

【平和行進】

毎年5月に東京をスタートし、8月に原爆投下された広島・長崎をめざす平和行進。「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ」「ふたたびヒバクシャをつくるな」の願いをつないでいます。岡山県内行進（7/16～7/26）に、“平和でないと健康づくりはできない”の思いで組合員・職員が一緒に参加しています。また、東山慰霊碑での集会や休憩場所で組合員が冷茶など用意し、行進者を励ましています。

【平和のつどい】

岡山医療生協「平和のつどい」は毎年12月8日（太平洋戦争開戦日）の前後に開催しています。2022年は、伊藤真さん（弁護士/伊藤塾塾長）を講師に招き、ウクライナ侵攻から日本の情勢と改憲について考える機会となりました。これからも「二度と戦争をしない」「子どもたちに平和な世界を残す」ために、「平和のつどい」を継続していきます。

【大気汚染測定】

空気を汚すもののひとつとして、窒素酸化物が知られています。二酸化窒素は自動車の排気ガスに含まれ、ぜん息など呼吸器の病気や健康に害を及ぼします。

岡山医療生協では、毎年、NO_2（二酸化窒素）測定調査を地域で取り組み、2022年は207ヶ所まで測定場所が広がっています。環境について関心を持ってもらう機会となっています。

西

北

津島

つだか

牛窓

岡南

大元

一宮

子育てサポート

【母と子のタッチケア】

1歳までの赤ちゃんを育児しているお母さんを対象にマッサージ指導や育児での悩み相談などを行います。お母さん同士の茶話会の時間も設けています。

【夏休み宿題応援隊】

夏休みを利用して行う小学生対象の企画です。学校授業の宿題はもちろん、障がいを持つ人のお話や戦争体験を聞いたり、ボランティア体験、戦跡めぐり、化学実験など社会勉強や平和学習も行います。

【どんぐりフェスタ】

どんぐりフェスタは2年に1回開催する「親子健康まつり」です。地元支部やキッズクラブ、小児科をはじめとする子育て関連部署などが協力し合ってメインステージ行事、医療関連や子ども向けコーナー、模擬店など賑やかに開催されます。

みっ

吉備陵南

70周年記念プロジェクト

70周年をみんなでお祝いするフェスティバルや、未来に向かっての新たな挑戦など、多種多様な企画を立ち上げています。

70周年記念
特設サイトもぜひ
御覧ください。
特設サイトへはこちらから!

プロジェクト1 夢プロジェクト

一人ひとりが持つ夢や希望を、岡山医療生活協同組合が後押しし、実現までサポートする。それが夢プロジェクトです。ひとりでは困難でも多くの方々の支えがあれば、夢は実現するかもしれません。今回は「あなたの夢を募集する。」という声かけから始まり、「メイクセラピーを医療に取り入れたい!」という夢を応援することに決定し、始動しています。まずは、70周年記念フェスティバルにおいて、「メイクセラピー」についての講演会を第一人者の岩井結美子さんにゲスト出演いただき実施しました。

プロジェクト2 創立70周年記念フェスティバル ～想いよとどけ、この未来も。～ 開催

創立70周年を記念した大きなフェスティバルを企画していましたが、新型コロナの影響で少し規模は縮小しました。今回のフェスティバルは料理愛好家の平野レミさんをスペシャルゲストに迎え、「だれでも、どこからでも」参加できる企画としました。なんと会場の様子をライブ中継で流し、会場でも自宅でも、子どもから大人まで幅広い世代に楽しんでいただけるフェスティバルを開催しました。

プロジェクト3 70周年記念 ロゴデザイン公募

平和・環境・個人の尊重など岡山医療生協の理念を形にした70周年を記念するロゴデザインを広く公募しました。

プロジェクト4 70周年記念 ポスター制作

岡山医療生活協同組合をもっと身近に感じて欲しい、もっと知って欲しいという思いから、組合員さんは活動する地域を、職員は職場をそれぞれポスターで紹介しています。

プロジェクト5 手作り作品展開催

2022年9月に70周年を記念した手作り作品展を3日間開催し、組合員さんから多くの素敵な作品が寄せられました。

プロジェクト6 70周年記念誌プロジェクト

岡山医療生活協同組合の記念誌は35周年、50周年、60周年と制作しており、今回は2011年～2021年の10年間をまとめた記念誌を作っています。今までの歴史や活動を振り返るだけでなく、先人がどのような想いで様々な事柄に取り組んでいたか、また組合員のどんな願いから現在の事業が始まったのか、職員や組合員が継承し、未来へ繋げる記念誌を目的に作っています。

プロジェクト7 ショート&ロングムービー制作

岡山医療生活協同組合の成り立ちや、地域で活動する組合員さんの声、新型コロナウイルスへ立ち向かう姿など、記録しています。ぜひ御覧ください。

プロジェクト8 めざせ! 1万人の大増資プロジェクト

組合員・職員・そして地域の方々に、出資することで岡山医療生活協同組合に「参加」する取り組みをすすめています。新たに「コンビニ増資」も取り入れています。いつでも気軽に岡山医療生活協同組合の増資に参加できる仕組みです。

70周年を迎えて

岡山医療生活協同組合は診療所活動がはじまりです。1952年10月21日、今から70年前のことです。地域住民306人が出し合った10万円の出資金を元手にと記録には残っていますが、紙約束の方が多く現金はわずかだったと裏話で伝え聞いています。多くの人がその日の生活も苦しかった時代です。今の国民健康保険のしくみができる前の時代で、『医療を受けたくてもお金がなくてかかれない』その問題に立ち向かい協同組合として出発しました。毎日診療をしても現金の収入は少なく、経営的にも苦労したんだろうと想像できます。70年の月日は経ちましたが、いつの時代も制度のはざまで困っている人たちがいる、制度を知らない人たちはもっといるなど、みんなで相談し、みんなで解決する精神は変わっていません。

70周年記念プロジェクトは、2年前に立ち上げ準備をすすめてきました。メンバー一同70年の歴史を振り返り、先人の積み上げてきたものを大事にしながら次の時代へすすめていく資料として、多くの人たちに読んでいただけたら幸いと願っています。

岡山医療生活協同組合
70周年記念誌編集委員会